

# 令和 7 年度 県立太田西山高等学校自己評価表

目指す学校像	1 人間力を高め、将来の夢を実現する学校 2 知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健全な人格の完成を目指す学校 3 自ら学び続ける力の育成を目指す学校 4 地域に愛され、信頼される学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	人間力を高め、地域を支え活躍する人材	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程による、就職から大学進学までの進路希望実現	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	主体的に学び続けることのできる生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>学習指導については、生徒の 84%が、本校は授業に関して様々な工夫がなされていると感じており、生徒の 83%が、本校の授業はわかりやすいと考えている。一方で、授業に前向きに取り組む家庭学習を行っている生徒の割合は 64%であり、基礎学力の不足や継続的な家庭学習の不足が見られる。よって ICT の利活用等を通じて個別最適な支援を行い、家庭学習を習慣化させ、探究的な視点からの授業改善を充実させていく。</p> <p>進路指導については、生徒の 89%は、将来の進路に関しての面談や指導が十分に行われていると感じている。生徒の多様な進路希望に対応した、進路情報の提供や進路指導を実施しており、生徒の 91%が、進路情報が適切に提供されていると感じている。今後は社会とのつながりを意識したキャリア教育を推進していく。</p>	1 探究活動等による生徒の資質・能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態に即した授業展開を通して、基礎的知識及び技能の向上と学習意欲の向上に努める。</li> <li>①ICT の利活用等を踏まえ、深い学びを実現するための授業改善の推進。</li> <li>②基礎的な知識および技能の定着と、探究活動による思考・判断・表現する力の育成。</li> <li>③授業改善推進チームを中心とした、授業における ICT を活用した効果的な授業の工夫。</li> </ul>	B
	2 キャリア教育の推進による、生徒一人ひとりに適した進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じたきめ細かな進路指導を充実することで、生徒一人ひとりに適した進路の実現に努め、生涯にわたって充実した生活を送るための基盤を作る。</li> <li>①ライフスキル教育を基盤としたコミュニケーション力ならびにキャリア教育の充実。</li> <li>②キャリアパスポートを活用した自己分析力や自己管理能力の育成。</li> <li>③多様な進路の実現に向けた進路情報の提供や組織的で体系的な進路指導の促進。</li> </ul>	A

別紙様式 2 (高)

<p>生徒支援の面では、生徒の 82%が、本校は時間や決まりを守る指導や非行等の防止に努めていると感じており、73%が様々な悩みや問題を気軽に相談できる状況にあると感じている。一方で、保護者の 49%は、本校生の印象をあまり良くないと感じており、51%が頭髪や服装があまりきちんとしていないと感じている。また、多様な生徒に対応した指導・支援が求められる。よって全職員の共通理解のもと、地域、保護者等と連携しながら個に応じた指導を行っていく。そして問題行動の未然防止に努めていく。</p> <p>特別活動においては、コロナ禍で定着したオンラインによる集会と、対面による集会を効果的に使い分けることができている。本校生徒会は非常に活動が活発であり、常陸太田市議会傍聴やいばらきハイスクール議会への参加、水郡線フェスへの参加準備、卒業式や入学式での校舎内装飾など、多くの活動を積極的に行っている。スポーツフェスティバルにおいて、多様な生徒が皆楽しんで参加できるように種目内容を工夫し、成功を収めた。ライフスキル教育で培った力を発揮させるべく、生徒の主体的な活動を支援していく。その際キャリアパスポートを有効に活用して、組織的に対応していく。</p> <p>働き方改革では、定時退勤日(月曜日)と完全退庁時間(19時)を設定している。時間外在校時間について、45時間超過者の割合は0.0%、80時間超過者の割合は0.0%であり、数値的目標は達成した。起案の種類によって、紙による起案とワークフローによる起案を効果的に使い分け、業務の効率化を図っている。生徒の欠席連絡に Google フォームを活用したり、放課後の電話対応を 18時 30分までにしたりするなどして、朝夕の業務の軽減を図った。完全退庁時間(19時)は概ね守られているが、定時退勤日(月</p>	<p>3 生徒一人ひとりを大切にする生徒支援の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた指導と、問題行動の未然防止を重視した指導により、生徒の「自律」から「自立」を育む。</li> <li>①問題行動の未然防止を重視した、学校内外における組織的な指導の推進。</li> <li>②全教職員による一体感とスピード感をもった指導体制の構築。</li> <li>③他の機関と連携した、個に応じた生徒支援の推進。</li> </ul>	<p>A</p>
<p>4 シティズンシップ教育の推進による、主体的に社会の形成に参画する力の育成</p>	<p>4 シティズンシップ教育の推進による、主体的に社会の形成に参画する力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動を通して、集団の一員としての自覚と責任に基づく規範意識の高揚と、課題を見つけ他者と協働して解決する能力を育み、社会の形成に参画できる資質・能力を養う。</li> <li>①生徒の主体的・自主的なHR活動・生徒会活動・学校行事等の支援。</li> <li>②カウンセリングマインドをもって傾聴する個別面談や教育相談体制の充実。</li> <li>③シティズンシップ教育の充実により課題解決に向けた主体的な活動の支援。</li> </ul>	<p>A</p>
<p>5 地域、保護者等との交流・連携による教育活動の充実</p>	<p>5 地域、保護者等との交流・連携による教育活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人材を活用して、地域への理解や地域の課題を探究する。また、地域に信頼される学校を目指して、地域の方や保護者等と連携し、理解が得られるように努める。</li> <li>①保護者等との緊密な連絡と連携。</li> <li>②中学校訪問や学校説明会及びHP等による情報の発信。</li> <li>③探究的な学習の時間において地域の方との連携による地域理解の促進。</li> </ul>	<p>B</p>
<p>6 ワークライフバランスを重視した働き方改革の推進</p>	<p>6 ワークライフバランスを重視した働き方改革の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外在校時間において「月平均 45 時間超過者の連続ゼロ」を目標に、業務の効率化と精選ならびに業務負担の均一化を目指す。</li> <li>①定時退勤日および完全退勤時間遵守に向けた声かけと個別面談の実施。</li> <li>②ICTを活用した業務の効率化、業務内容の精選と負担の均一化の促進。</li> <li>③部活動時間の遵守に向けた声かけと個別面談の実施。</li> </ul>	<p>A</p>

別紙様式 2 (高)

曜日)が徹底されていないため、管理職による声かけや個別面談を引き続き行っていく。また業務の連絡や報告、各種調査等において ICT を積極的に活用するとともに、業務負担の均一化を図り、業務内容の精選を継続していく。		7 ICT の利活用等を踏まえた深い学びを実現する授業改善の推進	・生徒による授業評価を活用し授業改善を促進する。以下①～③が数値目標。 ①「この授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」平均 3.5 以上。 ②「この授業を通して、考えたり表現したりする力が身についた」平均 3.5 以上。 ③「授業の目的が明確で、授業内容がわかりやすく工夫され、興味関心が向上した」平均 3.5 以上。	A
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
国語科	国語の基礎学力の定着	①基礎的な言葉の知識の定着と、言語活動による思考・判断・表現する力の育成。	A	B ・基礎学力向上ならびに国語に対する主体的な態度の育成、授業展開・構成の工夫 ・タブレットを用いた ICT 活用の授業展開ならびに確かな国語力の育成のための手立ての研究
		②生徒用タブレットを効果的に活用し、授業内や家庭学習で学力の定着を図る。	C	
		③積極的な進学課外とその充実、定期的な成績向上課外の実施。	A	
	生徒が主体的・対話的に学習するための授業改善	①主体的・対話的に学べる教材、指導内容の研究及び授業準備の徹底。	A	
		②生徒用タブレットを効果的に活用し、授業内や家庭学習で学力の定着を図る。	C	
		③授業評価で、「授業を通してできなかったことができるようになった」平均値 3.5 以上を目指す。	B	
	読書の活動の推進	①朝の 10 分間読書の時期に合わせたせた図書館との連携と利用促進、生徒の読書の機会を増やす。	A	
		②生徒の図書館利用(授業での利用も含む)年間 2 回以上を目指す。	A	
		③授業を通して、読書の活動を推進し、生徒の主体的・対話的な言語活動を充実させる。	B	
地歴公民科	基礎学力の定着と向上	①教科内容を精選し、学習意欲を喚起するカリキュラムマネジメントを実施する。	A	B ・基礎学力の定着 ・タブレットなどの ICT を効果的に活用しながら、主体的な探究学習を展開できる指導法を工夫する。
		②グーグルフォーム・クラスルーム等を効果的に活用することで自学自習や家庭学習を行いやすい環境づくりを進める。	B	
		③授業の目的が明確で、内容がわかりやすく工夫された授業を実施する。	B	
	社会的事象について学ぶための技能の習得	①アクティブラーニングの手法を取り入れ、生徒一人一人の主体性を重視した学習活動を実践する。	B	
		②ICT 機器などを効果的に活用し、インターネットをはじめさまざまな情報収集のメリット・デメリットを理解し、より適切な情報の活用を身につけさせる。	A	
	シティズンシップ教育の推進	①自分たちの課題を話し合い、課題解決に向けた主体的な活動を授業内でおこなう。	B	
②現代的諸課題について探究し、地域の課題を見つける活動を通じて社会に参画する姿勢を養う。		B		

別紙様式 2 (高)

数 学 科	分かる授業のための工夫	①十分な教材研究や、学習内容の精選を行い、学力向上を図る。	B	B	下記のことの継続・徹底 ・繰り返し、復習する時間を確保し、定着を図る。 ・提出物や授業への取り組みに対する声かけを繰り返し、さらなる改善を図る ・ICT を活用すべき分野・場面での積極的な利用
		②電子黒板、タブレット端末、数学のソフトウェアを、授業・学習に活かし理解を深めさせる。	B		
	基礎学力の向上	①定期考査毎に課題・宿題を提示し、学習習慣の定着を図る。	B		
		②授業プリントを作成し、問題演習と振り返り学習に活用する。	B		
	学び直しの充実	①小テストや単元ごとのまとめプリントを活用し、学習内容の定着を図る。	B		
		②検定試験や進路対策をはじめとした、生徒の実情・進路希望に合わせた課外学習を計画的に実施する。	B		
理 科	基礎学力の向上	① 小テストを実施し、各単元ごとに知識の定着を図る。	B	B	・細かい小テスト、復習の徹底をする。 ・さらなる実験、探究活動を取り入れる。 ・ICT の効果的な活用を続けていく。
		② ふりかえりとして授業内容を文章としてまとめることをとおして、表現力の育成を図る。	B		
	「わかる授業」の実現に向けた工夫	①ICT 機器を活用し、デジタル教材と身近な事例を提示することを有機的に組み合わせ、科学への興味関心を高める。	A		
		③ 実験・観察を適切かつ効果的に実施し考察する場面を多く設ける。	B		
		④ 探究活動を取り入れ、レポート作成などの言語活動を取り入れる。	B		
	授業改善	① 各科目において教材の共有、評価方法の確立を実施する。	B		
②生徒授業アンケート等を活用し、自身の授業改善に向けて取り組み、授業評価 3.5 以上を目指す。		A			
保 健 体 育 科	保健体育の授業の充実	①運動の楽しさや喜びを十分に味わうことができる授業を展開する。	B	B	年間を通して大きなケガや事故なく、授業を展開することができた。主体的に学べるような手立ての工夫が必要である。次年度も感染症対策に注意しながら授業展開する。
		②授業や講習会を通じてAEDの正しい使い方を習得させる。	B		
		③ICT 機器を活用しながら、技術の向上について自ら分析し考えさせる授業を展開する。	B		
	生徒の体力向上への意識	①体力テストの結果を活用し、年間を通じて補強運動を行い体力を向上させる。	A		
		②運動量を確保するための体育教材や授業形態の工夫・改善をする。	B		
	特色ある体育的学校行事	①種目選択の成果を示す場として、スポーツフェスティバルを計画的に実施する。	A		
②集団の和を示す場として、集団行動を年間を通して実施する。		B			
芸 術 科	知識・技能の習得	①基本的な技法を体得し、各自の作品を鑑賞・発表し合うことができる。	A	B	・題材の連続性を意識した授業展開の工夫をする。 ・ICT の効果的な活用を考える。
		②ICT を活用した授業展開の工夫し、知識・技能の定着を図る。	B		
		③授業評価で、「この授業を通して、知識や技能が身に付いた」平均値 3.5 以上を目指す。	A		

別紙様式 2 (高)

	思考力・判断力・表現力等の育成	①歴史的価値や、芸術性の高いものを広く鑑賞し、作品を評価する能力を養う。	A		
		②個人やグループでの探求活動を入れ、思考・判断・表現する能力を育成する。	B		
	主体的・協働的な幅広い活動の取り組み	①教材教具の事前準備、遅刻や欠席をなくす基本的な態度や姿勢を養う。	A		
		②生徒が主体的に授業に参加し、自ら表現技法を工夫できる能力を養う。	B		
		③アクティブラーニングの視点から、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を研究する。	B		
英語科	基礎学力の定着	①小テストを定期的(概ね各課終了後)に実施し、生徒の基礎学力と学習習慣の定着を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員間におけるICT活用度の差を縮めていくため、相互授業見学や教科会等における情報共有を活発にさせる。</li> <li>・基礎学力を定着させ、生徒の自己肯定感を高めることにより、どの学年の生徒も、より前向きに授業に参加できるよう、ワークシート等の各種教材や、進学課外や成績向上課外を充実させる。</li> <li>・英語に関連する各種検定については、特に進学コースの生徒を中心とした意識の涵養を図り、多くの生徒がチャレンジできるよう支援を行う。</li> </ul>
		②実用英語技能検定等の各種検定試験の受検を促し、英語運用能力のさらなる向上を図る。	B		
		③進学課外を充実させるとともに、成績向上課外を積極的に実施する。	A		
	分かりやすい授業	①ICTツールを活用し、ワークシート等の各種教材をを教員間で共有する。	B		
		②ALTとの授業、及び異文化交流講座や英語運用力講座を通して、英語や、異文化への関心を深めさせる。	A		
		③生徒による授業評価において、「この授業を通して、英語や海外の文化に対するの興味や関心が高まった」と答えた生徒の評価平均が3.5以上になることを目指す。	C		
	英語への興味を促す	①ICTを活用して生徒の学習時における視覚的・聴覚的な効果を狙うと同時に、生徒自身が各種ツールを適切に使用できるようにすることで、生徒の深い学びに役立たせる。	B		
		②辞書アプリDONGRIの導入・活用により、体系的な学習の実施を図る。	B		
		③英語4技能の習得のため、パフォーマンステスト等を活用し、生徒の主体的・対話的な言語活動を充実させる。	B		
家庭科	自立に必要な基本的知識と技能の習得	①生徒が主体的に取り組むことのできる適切な教材を提供する。	B	B	基礎基本の定着を目指し、ICT教材等を活用した反転学習をすすめていく。 グループワークをとおし、他者と協力して課題解決にあたる機会を増やす。
		②ICT教材を活用した反転学習を行い、基礎的内容の定着を図る。	B		
		③適切な課題や目的を設定し、グループワークなどをとおして協調性を育むとともに、思考力や課題解決力を養う。	B		
	自らの生活の向上を図る力と、実践的な態度の育成	①ホームプロジェクト学習を通して、思考・判断・表現する力の育成に努め、主体的に自らの生活課題の解決を図ろうとする態度を育てる。	B		
商業科	基礎学力の向上を目指し分かる授業を展開する	①商業を初めて学ぶ生徒に対して分かりやすい言葉・表現で授業を行い、苦手意識を持たせないよう工夫する	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスの基礎基本となる知識や技術を身につけ、社会人・企業人として活躍できるよう、より実践的な授業に取り組む。</li> </ul>
		②自らが調べたり、家庭学習に取り組みやすいような宿題・課題の出し方を工夫する。	A		
	規範意識の向上	①あいさつの仕方など、授業を通して規範意識の向上を図る取り組みを行う。	A		

別紙様式 2 (高)

	地域の特色を活かした授業	①インターンシップや販売実習・企業紹介動画作成などで、地域企業との交流を図る。	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品開発第二弾に取り組む。</li> <li>・より地域との交流を増やせるように取り組む。</li> <li>・設備が老朽化してきているところがあるので整える。</li> </ul>
		②伝統文化を意識し、生け花や着付けの学習をとおして日本らしさを学ぶ授業を積極的に行う。	A		
	I C T機器の活用	①キーボードの入力練習から始まり、I C T利用の検定試験受験に向けた取り組みを行い技術の向上を図る。	A		
		②課題解決型学習の最終目標をプレゼンテーションとパワーポイントの利用技術の向上を図る。	A		
		③最新のパソコンでの授業を充実させると共に、パソコンでの試験・採点を積極的に行う。	A		
情報科	情報を活用するための知識や情報社会との関わりについて理解させる。	①教科書を読み、内容を確認するためのワークシートを活用する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を変更して2年目だが、生徒の実態に合った授業が展開できた。</li> <li>・次年度以降の情報科については、実施内容が大きく変更されると思うので、生徒が主体的に学習に取り組めるようにサポートしたい。</li> </ul>
		②情報に関わる最新のニュースや時事問題を授業で取り上げる。	B		
		③コミュニケーションツールの利用法を学び、双方向コミュニケーションを行う。	A		
	情報技術を適切かつ効果的に用いる技能を身に付ける。	①タイピングの練習を行い、スムーズに情報が入力できるようにする。	A		
		②コンピュータ実習の時間をしっかりと確保し、操作に慣れるようにする。	A		
		③授業中の実習を通して、表計算ソフトを用いたデータの処理方法を習得する。	A		
	情報社会の問題の発見・解決に向けて主体的な取り組みを行う。	①I C Tを活用したアンケートなどにより、身近な問題についてデータを集める。	A		
②デジタルツールを用い、学校生活の中でタブレット端末を活用する機会を増やす。		A			
③身近な問題についてレポートを作成する課題を行い、問題の分析力を身に着ける。		A			
福祉科	福祉について体系的・系統的に理解し、関連する技術の習得	①福祉に関する知識・技術を福祉の具体的事例と関連付けて理解し考察させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉について体系的・系統的に理解し、関連する技術の習得し、個々の生徒に合った授業展開ができた。</li> <li>・福祉について基本的理解を基盤とし、根拠に基づいた介護が行える人材の育成ができた。</li> <li>・次年度も生徒の特性を生かした授業を展開し、介護職員初任者研修修了を目指す。</li> <li>・他機関と連携し、より実践的な学びにつなげる。</li> </ul>
		②生徒の体験から考察、討論できるよう学習活動を展開する。	A		
	福祉に関する課題の発見と、職業人に求められる倫理観を踏まえ課題を解決する力の養成	①福祉に関する具体的な事例を取り上げ考察や討論を行う。その上で様々な事例について実践に結びつく課題解決のための学習活動を行う。	A		
		②介護職員初任者研修修了を目指し、理論と実践の繋がりある学習活動を展開する。	A		
	主体的かつ協働的に取り組む態度の育成	①社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てる	A		
		②介護職員初任者研修修了を目指し、主体的に学ぶ意欲を高める学習活動を行う。	A		
	ICT 機器の活用	①ICT 機器を活用して生徒の学習時における視覚的・聴覚的な効果を狙う。	A		
		②生徒が ICT 機器を活用し、社会課題解決やレポート作成の力を身につける。	B		

別紙様式 2 (高)

教務部	教育計画の立案と円滑な運営	①本校生徒の実情に合致した、適切な教育課程のあり方について議論の場を設ける。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業におけるICT活用についての研修を充実させる。</li> <li>・小規模校支援型遠隔授業を効果的に実施できるように運用を行う。</li> <li>・コンピュータを用いたテストの実施を含めた効果的な定期考査の実施について検討する。</li> <li>・普通教室棟長寿命化工事への対応を含めた、校内の環境整備について十分な検討を行う。</li> </ul>
		②授業と学校行事の効果的かつバランスのとれた計画を立案する。	A		
	学習活動等の充実	①公開授業や相互の授業参観、生徒による授業評価等を通して、授業の改善を図る。	A		
		②ICT教育推進委員会と連携し、授業等におけるICT機器の効果的な活用について職員に情報提供を行う。	B		
		③反転学習や意見の集約を図る手法の一つとしてICT教材等を活用し、生徒の基礎学力の向上を図るとともに思考力や表現力を育成する。	A		
	効果的な広報活動	①ホームページの内容充実及び更新に努め、本校の最新の情報を発信できるようにする。	A		
②学校説明会の実施内容を工夫し、本校の魅力をさらに伝えることができるようにする。		A			
図書館の充実及び読書の推進	①HRや授業に関わる書籍を充実させ、図書館の利用促進を図る。	B			
	②「朝の10分間読書」や授業での図書館の活用を通して、本に触れる機会を増やすとともに読書意欲を高め、自主的学習を支援する環境整備に努める。	A			
生徒支援部	未然防止の指導体制の確立	①定期的に生徒支援部会で生徒情報等を共有し、問題行動の未然に防止につながるように情報の共有を図る。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒支援の視点を持ち、生徒の些細なSOSを察知できるように体制を整える。</li> <li>・自転車や原付の安全指導の徹底と自転車乗車時のヘルメット着用の努力義務などルール改定を継続して周知する。</li> <li>・今年度に引き続き、スクールカウンセラーなどの専門家による教員研修を複数回実施する。</li> </ul>
		②計画的に登校指導、校外の巡視を実施し、挨拶の励行や身だしなみ指導の徹底を図り、生活指導を行う。	B		
		③スクールカウンセラーの積極的な活用を図り、さらに外部の機関とも連携しながら組織的に問題解決に取り組む。	B		
	適切な初期対応	①学校生活アンケートを毎月実施し、いち早く生徒の様子を把握する。	A		
		②外部から各専門家を講師として招き、いじめや特別支援教育に関する校内研修を複数回実施し、適切な生徒対応につなげる。	A		
	一体感のある指導体制の確立	①定期的に身だしなみ指導を実施し、全職員の共通理解のもとに高校生として好ましい頭髪や制服の身だしなみを確認・指導する。家庭とも連携や協力しながら改善を図る。	C		
②生徒支援方針、特別指導の基本方針に沿った対応が行えるように努める。		B			
③オンラインで各学年主任と情報を共有したり、生徒指導部で議論されている内容を、全職員と共有できるようにデータ化し、閲覧できるようにすることで、共通理解のもと、指導できるように努める。		B			
進路指導部	一人一人の進路希望先に応じた支援	①進路希望調査の実施に加え、個別面談等を通して生徒の進路目標の把握に努める。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試環境が大きく変化する中、多様な入試制度に対応できるよう情報の収集を図り、的確な進路情報の提供に努める(継続)。</li> </ul>
		②各学校および企業、ハローワーク等と連携を図り、生徒個々の進路希望に応じた適切な指導に努める。	A		
		③外部模試のデータを共有し、各教科と連携しながら基礎学力の定着に努める。	B		
		④教科と連携した進学課外の実施を通して、基礎学力の向上と入学・入社試験に対応できる力の育成を図る。	B		

別紙様式 2 (高)

		⑤大学入学共通テスト対策および多様な入試制度に対応できるよう情報を収集するとともに、各教科と連携しながら力の育成を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部模試結果の分析をすすめ、本校の課題を各教科、学年と共有し解決方法を探る。</li> <li>・進学希望者に対する組織的・継続的な指導体制の構築を図る(継続)。</li> </ul>
		⑥各種資格取得やオープンキャンパス、一日看護体験などの参加を推奨する。	A	
	職業観・勤労観の育成	①進路ガイダンスや進路講話等の進路探求活動を通して、生徒の進路や職業意識の醸成を図る。	A	
		②キャリアパスポート(ポートフォリオ)を活用し、生徒個々のキャリア形成に向けた系統的な指導に努める。	B	
	広報及び情報提供の充実	①「進路の手引き」や「進路だより」などを通じて、面接週間や保護者面談時などに適宜進路情報を提供する。	B	
		②進路資料室や進路掲示コーナーの充実に努め、的確な進路情報を生徒に提供する。	A	
特別活動部	HR活動、学校行事、生徒会活動の活性化	① 生徒と協力した学校行事及び生徒会活動を実施する。	A	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭や野球応援では、生徒会や文化祭実行委員・応援委員を中心に学校を盛り上げてくれた。</li> <li>・源氏川清掃ボランティア活動は、多くの生徒が参加してくれた。</li> </ul>
		②キャリアパスポートの有効活用により、生徒が主体的・意欲的に取り組める体験的活動を充実させ、企画・立案する。	B	
		③学校行事及び生徒会活動の新校としての体制づくりに努める。	B	
	部活動の定着率の向上と支援の継続	①太田西山高の部活動及び地域と連携した活力ある部活動を展開する。	C	
		②部活動の様子や活躍をホームページに掲載し、生徒たちの自己有用感を向上させる。	C	
保健厚生部	学習環境の美化・整備	①整理整頓・清潔などへの啓発を行い、環境美化に対する生徒たちの意識の醸成を目指す。	B	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の整理整頓美化について、さらなる意識向上を図ると同時に、生徒の生活習慣の改善を目指す</li> <li>・不審者対応避難訓練は充実したものになった。生徒職員一同、大きな学びにつながった</li> <li>・生徒のメンタル不調に対応するため、さらに関係各位と連携を深める</li> </ul>
		②清掃指導を重点化し、生徒たちの快適な学習環境作りを目指す。	B	
		③学校環境の安全点検を3回行い、修理が必要な場所は修繕を行う。	A	
	生徒の心身の健康の増進	①各種検診の実施と学校医の指導のもと、保護者との連携を保ちながら、健康な生活を送る。	A	
		②性の講演会等を実施し、生徒の心身の健全育成を図る。	A	
	防災意識の高揚	①地域と連携した避難訓練を実施し、具体的な行動を通して緊急時の対応に備える体制を作る。	A	
		②防災に関する講話などを通して生徒たちが主体的に当事者意識をもつように啓蒙する。	A	
	教育相談の充実	①教育相談の充実、SCと担任等との情報交換の機会を図る。	A	
情報発信	①広報誌を発行・配付し、保健厚生に関する情報の提供・共有を図る。	A		
渉外部	P T A活動の円滑な実施	①役員・委員会を円滑に実施し、早めの情報伝達・共有を図る。	A	A <ul style="list-style-type: none"> <li>P T A活動を円滑に実施し、全会員が参加する行事への参加者増に努める。</li> </ul>
		②関係分掌や学年との連携を緊密にし、協力体制を密にしていく。	A	
	研修体制を強化する	①校内親子研修会を実施し、研修の機会を充実させる。	B	
		②役員・委員の方々には積極的に県北指導者研修会や生徒支援中央大会、その他、県内外の研修会等への参加を促す。	A	
	本校教育に対する保護者の理解と協力の促進	①学校行事の記録に努め、P T A会報『太田西山』を通して、生徒の諸活動・P T A活動を知らせる。	A	

別紙様式2 (高)

第一学年	マナーの向上と基本的生活習慣の確立	①個別面談を通して生徒理解に努め、生徒情報を学年職員で共有する。	A	B	・基礎学力の定着・学びに向かう姿勢の育成に務める ・学習時間の確保・基本的生活習慣の定着を図る ・自然体で物事を進める姿勢の醸成 ・のぞましい人間関係の構築力を育む
		②身だしなみ指導や登校指導を通して、規範意識を育む。	A		
		③時間の厳守や挨拶の励行について、継続的に指導する。	B		
	主体的な学習習慣の確立と進路意識の向上	①家庭での学習時間が増えるよう指導する。	C		
		②英語検定、数学検定等の資格取得を励行する。			
		③進路ガイダンスやタブレットでの調べ学習を通して、自身のキャリアについて考えさせる。	B		
社会の形成に参画する力の育成	①HR活動や探究活動を通して、協働的に課題を解決する力を育む。必要に応じてタブレットを活用する。	A			
	②学校行事や部活動への積極的な参加を勧め、集団へ寄与する態度を育む。	A			
第二学年	基本的生活習慣の確立と規範意識を高める	①身だしなみ指導や登校指導等を通して、規範意識を育む。	B	B	・進路指導の継続・充実 ・規範意識の育成の継続 ・家庭学習時間の増加 ・一つ一つの行事にしっかり取り組む
		②挨拶や言葉遣いなどの礼儀作法を知り、時間を守る姿勢を育む。	B		
		③個別面談を通して生徒理解に努め、生徒情報を学年職員で共有する。	B		
	主体的な学習習慣の確立及び進路意識の向上	①家庭での学習時間が増えるよう指導する。	C		
		②ICTの活用により、自分の将来について調べ理解を深める。	B		
		③資格や検定試験の受験を励行する。	B		
		④進路ガイダンス等を通して、自分の進路について考え、進路意識の向上を図る。	B		
	社会の形成に参画する力の育成	①学校・学年行事や委員会活動等への積極的な参加を促し、集団へ寄与する態度を育む。	A		
		②HR活動等を通して、協働的に課題を解決する力を育む。	B		
第三学年	個に応じたきめ細やかな進路指導	①個別面談や進路ガイダンス等を通し、一人ひとりに適した進路を選択できるようにする。	A	A	・基礎学力を定着させるための工夫 ・基本的な生活習慣を確立させるための工夫
		②面接練習や志望理由の作成等の個別指導を充実させる。	A		
	自律的な基本的生活習慣の確立	①生徒及び保護者との面談を通し、連携して心の教育の充実を図る。	B		
		②身だしなみや挨拶等の重要性を理解させ、基本的な生活習慣を確立させる。	B		
	組織的に学年の運営が為されるための共通理解と協力分業の推進	①学年、学校と生徒及び保護者間の適切な報告・連絡・相談に努める。	A		
		②学年全体で業務の内容及び課題を共有し分業を進める。	A		

※ 評価規準： A：目標を大きく上回る達成度である。 B：目標を上回る達成度である。 C：ほぼ目標どおりの達成度である。

D：目標を下回る達成度である。 E：目標を大きく下回る達成度である。